



2024年4月1日発行
1916年6月1日創刊
発行 / 小川 健一郎
編集 / 大阪 YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

YMCA 大阪青年



ピンクシャツデー2024(しろがねこども館アフタースクール)

大阪YMCA「VISION150」への^{なが}希い

「光は暗闇の中で輝いている」—日本YMCA 中期計画(2021-2023)に示されている聖句は、私たちが闇に取り囲まれてうずくまっている時に、神が希望の明りを灯して働いていることを告げている。この聖句が記されているヨハネによる福音書1章の書き出しは有名な「はじめにことばがあった」である。すべてのはじまり、つまり未来に向かうことを前提とした「はじめに」と過去表現「あった」で構成される短文に、反転的な時間の緊張が感じられる。では、「ことば」とは何か。事象に意味と認識を与え、時空を超えて受け渡されるもの。それは神そのものであるという福音書の「はじめ」の宣言でもある。

1年前に亡くなった作家の大江健三郎は、幼い頃に祖母から聞いた郷里の森の中の「自分の木」の下で、子どもの頃の自分と対話するという空想を述べている。子どもの自分から問われる未来の生き様についての応答が彼の小説の仕事だったという(大江健三郎『「自分の木」の下で』2001年)。そのモチーフは、小説『懐かしい年への手紙』(1987年)の最終章で主人公

に向けた手紙として綴られている。「ギー兄さんよ、その懐かしい年のなかの、いつまでも循環する時に生きるわれわれへ向けて、僕は幾通も幾通も、手紙を書く。」(講談社文芸文庫版、P.589)そこには、時制の反転・転換によるいのちの循環の世界観が表れている。

2009年から2021年の連載漫画と並行してアニメ放送され、昨年完結した諫山創原作の『進撃の巨人』には、やはり「未来の記憶」という時制反転の描写があり、物語の重要な基軸をなす。そこでの「記憶」は「巨人」の特別な能力によって伝えられる未来の映像シーンであり、言葉によるものではない。「記憶」で見た未来は人間が変えることのできない決定づけられた運命であり、自由という希望のビジョンのために絶望的な「記憶」に向けて進み続ける、という矛盾が描かれる。同作品は世界的な反響とともに、パレスチナ・ユダヤ・ヨーロッパ史、ひいては現代社会の構造や人類の精神性そのものがモチーフになっているとも言われる。確認できていないが、『進撃の巨人』に上

述の大江作品群の影響が感じられる。大江が常に重要な設定に置いた、四国の森の中の谷間、谷間に伝わる巨人伝説、歴史上の「一揆」に象徴される絶望的な自由への闘争、そしてその歴史が現在と未来を交叉して連環する展開は、いずれも諫山作品の「壁」、知性無知性の「巨人」、「進撃の巨人」による力の開放、「道」と呼ばれる「未来の記憶」に繋がれ反転する時制の中で進むストーリーに呼応する。

『懐かしい年への手紙』の中で、主人公はダンテの『神曲』の描写に自らの生き様を重ねる。『神曲』「煉獄篇」第15歌において煉獄で巡礼者が見る夢を「ビジョン」と捉え、ビジョンは誰かに与えられるものではなく「主観的に」見ようとするイメージであり、ダンテが地獄から煉獄を経て至る天国においてもたらされる神の「愛—l'amor」の詩に至るための死と絶望の道筋だと説明する。第1話「二千年後の君へ」に始まる『進撃の巨人』を見(読み)終えた人なら、『神曲』3篇になぞらえたこのビジョンの説き明かしは、「未来の記憶」に導かれてクライマックスで「愛」のテーマへ至る長い物語に重なり、難解な両作品を時代を超えて橋渡し、わたしたちに切実なメッセージを放つことを実感するだろう。

「ビジョン」は、認知的な言葉のみで共有するべきものではない。むしろそれは情景や画像や情動によって媒介されるイメージであり世界観である。その世界観は、旧約聖書における預言者のメッセージのように、過去に向けて書かれる手紙や未来から提示される記憶といった時制の反転といのちの連環によって織りなされる愛と平和への希求である。その希(なが)いは、見通しのきかない不安や絶望の中にこそ灯される光に照らされている。

大阪YMCA「VISION150」。それは2032年という未来に達成するべき理想ではない。私たちがYMCA運動の本質に学び、懐かしい年へのメッセージと未来からの記憶を真摯に受け止めながら、「今、ここで」出会い、対話し直す営みを呼びかけ、そのことに平和と愛のさいごの希(のぞ)みをかけようとする招きである。



大阪YMCA 会長

いわさか にき
岩坂 二規

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代のひとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

●未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。

●生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。

●世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

VISION150 スタート!! キービジュアル決定!

大阪YMCA大会2023で発表された『VISION150』が2024年4月1日より本格的にスタートします。その第1弾として、皆さんからの投票により『VISION150』の公式キービジュアル(マーク)が決定しました。皆さんと一緒に『出会い』と『語らい』をデザインしていきましょう!



- 【コンセプト】**
- 『語らい』から連想される“フキダシ”をモチーフに、擬人化することでワクワクする『出会い』の様子をマークとして表現しました。
 - 3者それぞれのフキダシの色と形を変えることで多様な人との多様な関わりも表現しています。また、3者の配置はYMCAの「Y」を表しています。
 - 『マーク』としては3者のフキダシを想定していますが、他のメディア(ポスターやホームページ他)次第ではフキダシの数は無限に増やせる展開性もっています。
 - VISION文言は、マークに響き合うやさしい印象の「C4ユニバーサルアール(丸ゴシック)」を採用しました。

～ VISION150 約束文 ～

大阪YMCAは2032年、創立150周年を迎えます。私たちは創立からこれまで変わらず、人の『いばしょ』であり続けてきました。関わるすべての人々に「それがあなたに合っているかもね」とそっと寄り添いながら。

自然の中のキャンプ、学びと育みの校園、ボランティアや介護・福祉の現場など、共に学び・寄り添い・高め合う景色の中でいつも交わされたのは『誰か/自分自身/何か』との『対話と共感』です。人生のある時期に少し立ち止まって自分を見つめ直すための『いばしょ』となり、また走り出そうとする時には、支えとなって伴走する存在でもありました。

今、私たちをとりまく環境は大きな転換期を迎えています。気候変動、コロナ禍、戦争、少子高齢社会に貧困格差…。すべての人々が『いばしょ』と『つながり』を約束され、困難の中に希望を見出すため、私たちの“人と繋がり、語らう『場』づくり”の文化と創造力を今こそ発揮する時ではないでしょうか。

2032年、この歩みが150年を迎える時、私たちが大切にしている「社会のカテゴリーにとらわれないフラットな関係性」を原動力に、真の『共生』を創造する運動体として、あなたとわたしの幸せが同じ視座で実現できる社会を、大阪YMCAはめざします。

大阪YMCA VISION150サイト
<https://osakaymca.or.jp/contents/vision150/>

ユース事業部(公益財団法人)

「一歩踏み出そう！」

ユース事業部 南YMCA 事業長 ^{きりとおし なつみ} 切通 菜摘

寒い冬をじっと耐え抜いた動植物たちの、生き生きとしたのちの躍動を感じる春がやってきました。色鮮やかな草花や、虫や鳥のその躍動を感じると、ワクワクした気持ちになります。新年度、期待と不安の大きさは人それぞれかもしれませんが、新しいことにチャレンジしてみようと意気込んでいるのは、みんな同じではないでしょうか。私自身も新たにチャレンジしたいことに胸を躍らせています。「チャレンジすること」は、自分のできないことや難しいと思うことに一歩踏み出すことです。ドキドキするし、できなかったらどうしようと思うことももちろんあります。

この「チャレンジすること」が、新しい何かを得られるチャンスでもあるということを実感するできごとがありました。2月下旬に4泊5日で行ったユースボランティアリーダー(以下、リーダー)対象のスキー実技トレーニングでのことです。このプログラムは、リーダーたちが自分のスキーのスキルアップに取り組むトレーニングで、子どもたちとのキャンプと同じようにグループ指導でスキー講習を行います。私が指導担当したリーダーの中に、自分と他のリーダーを比べ、自分が下手だと思うこと、そして思い描く滑りができないことが重なり、落ち込むリーダーがいました。そんな時に「一緒に頑張ろう!」「明日はこれにチャレンジしてみよう!」という仲間の声が、また明日も頑張ろうという気持ちにさせてくれるのでし

た。最終日のスキー講習を終えた後のふりかえりでは、何人も嬉し涙や悔し涙を流していました。この体験を経て、「キャンプにくる子どもたちの気持ちがとてもわかった。チャレンジできるように背中を押す存在になりたい。」「こんなに緊張するとは思わなかった。チャレンジする子どもたちを抱きしめてあげたい!」と、リーダーたちは子どもたちと過ごすキャンプに想いを巡らせていました。YMCAが一人ひとりのチャレンジを応援する場であるために、私たちリーダーもチャレンジし続ける一人でありたいと思っています。私たちと一緒に、新しいこと・克服したいこと・もっとよくしていきたいことにチャレンジしましょう。さあ、まずは一歩を踏み出しましょう!



こども園事業部

子どもたちとともに、これからも ~ゆたかな「こころ」とすこやかな「からだ」づくりを大切に~

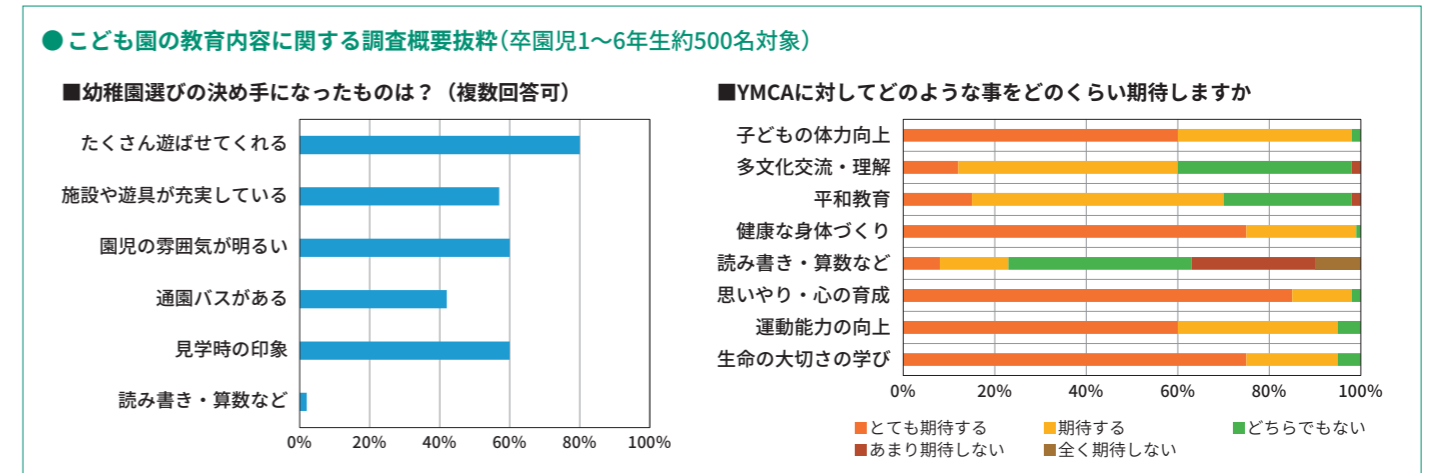
こども園事業部責任者 ^{やまぢ ひろのぶ} 山地 弘伸

1976年のYMCA松尾台幼稚園の開園以来、YMCAこども園では体育遊びやリズム運動などを保育カリキュラムの中に積極的に取り入れた健康教育を推進し、子どもたちの自主性、協調性、創造性などを育むことに取り組んできました。

2024年度がスタートしました。こども園事業部は、これからの未来に向けて大阪YMCAの使命や新しく示されたVISION150を拠り所として、子ども・保護者・スタッフ・地域が語り合いながら、

社会を変革していく青年を育てていくことができるよう、地域の幼児教育、子育て支援の充実をより担っていくことが求められていると考えています。何が求められていて、また何が求められていないのか、子どもたちがこれから歩もうとしている未来を考える時、本当に必要なこと、大切なことは何かを、しっかりと統計や根拠を元に、見据えた取り組みを進めていきたいと思っています。

*下記の表は、これまでに保護者の皆さまのご協力の下、集計した保育内容に関する意識調査のアンケートの結果と考察です。



調査を通して、保護者の皆さまが、体力向上や思いやりの心、生命の大切さなど、子どもたちの心と身体の成長を望んでYMCAを選択・通園されていることがわかりました。このことから、やはりYMCAの方針である「こころとからだをのびのびと育む園」としての教育保育理念が評価されていると理解できます。卒園した後、園での経験がどのように影響しているのか、また役に立っているのかを検証していく取り組みを今後も進めてまいります。

ユース事業部(学校法人)

ランゲージセンター サタデープログラムのご紹介 Hello Everyone! Pleased to meet you all!

ランゲージセンター ^{ディフ ダワング} サタデークラスコーディネーター Dave Dawang

ランゲージセンター天王寺校の子ども英語プログラムでは、言語としての英語と、英語を使う環境に焦点を当てたサタデークラスを行っており、4月からは、2歳から12歳まで約200名が新しいクラスでスタートします。

このプログラムの一番の特徴は、生徒がクラスメートや先生と英語で交流することです。9時30分から14時50分までという長時間を英語で過ごすので、授業時間だけでなく、休み時間にお友達と遊ぶときや、お手洗いにいきたいときにも、自分の意思を英語で伝えることが必要になります。

クラスは、外国人講師と生徒のロールモデルでもあるバイリンガルの日本人講師が担当することも大きな特徴の一つです。

また小学校のように、時間割によって、午前は教科書、文法、フォニックス(アルファベットと音のつながり)など、それぞれのポイントに焦点を当てて英語を勉強し、午後のテーマ学習では、体育、コンピュータ、クッキング、遠足などの楽しいアクティビティから、SDGs(持続可能な開発目標)についてのディスカッションやプレゼンテーションまで、「英語“を”学ぶ」と「英語“で”学ぶ」の両方を取り入れた内容になっています。

「休み時間に友達と遊べるのが楽しい!」「学校ではしないことができるからIT Timeが好き!」など長時間のクラスならではの部分に魅力を感じながら英語を学んでいます。同年代のお友達と関わりながら、いろいろな国の先生から多様な文化を学ぶことで、子どもたちが英語への興味や好奇心を深め、未来が世界に広がっていくことを願っています。



大阪YMCAのピンクシャツデー2024の取り組み

社会福祉事業部 せいけ きゅうへい 清家 球平

大阪YMCAでは、2月をピンクシャツマンズ、2月28日(水)をピンクシャツデーとして、いじめについて考えるため、各事業で様々な取り組みを行ってきました。取り組み期間を前にしたピンクシャツデー推進委員会では、ピンクシャツマンズを「自分以外の人を感じる期間」「相手の立場で考える期間」としようと、全体で共有しました。「他人事を自分事とする」取り組みです。

私が勤務している高齢者施設でも、利用者の皆さんと「いじめについて」、また、「他者を感じることにについて」考える時を持つことができました。いつもあまり話さない利用者同士がこのテーマで話すことや、発語の難しい利用者のことを気かけ、「この人のお茶無くなってから入れてあげて」などスタッフに伝えてくれること、いつもスタッフがしている作業を「今日は手伝うわ」と言ってくれることなど、いつもにも増して、他者を感じ、積極的にアクションを起こす姿がたくさん見られました。

17年前にカナダの2人の青年から始まったアクションが、日本でも年齢問わずアクションを起こすきっかけとして続いています。



YMCA学院高等学校では、ピンクシャツマンズのひと月を通して、いじめ・多様性・マイクロアグレッション等について気づきと学びを深めました。

ピンクシャツデーとは

2007年、カナダでピンクのシャツを着て登校した少年がいじめられました。それを見た2人の生徒が75枚のピンクのシャツを友人・知人に配り、翌日登校します。学校では呼びかけに賛同した多数の生徒がピンクのTシャツを着て登校。学校中がピンクに染まり、いじめが自然となくなったそうです。そのエピソードがSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の第4水曜日でした。それ以降、2月の第4水曜日には私たちがいじめについて考え、行動する1日としています。

2024年度大阪YMCA 年間聖句・年間讃美歌 決定

2024年度年間聖句

「希望は失望に終ることはない。」

(ローマ人への手紙5章5節：口語訳)

選考理由：

先が見えず、不安な世の中ですが、私たちに希望と勇気を与えてくれる聖句です。辛い時、暗闇の中にいるように感じる時、希望の灯火が見えたら生きる力が湧いてきます。願わくばYMCAの活動がその灯火になりたいという思いを与えられます。

※年間聖句として、より力強い表現である口語訳を採用しました。

2024年度年間讃美歌

新生讃美歌 73番

「善き力にわれ囲まれ」

選考理由：

ナチス・ドイツ下で弾圧を受けながら最後まで信仰を貫いた神学者ボンヘッファーの獄中書簡が元になった歌詞です。争いや自然災害、弾圧や不正義、また生きづらさによって悩み、時に諦めを強いられるような現代社会で、神様による希望の光を待ち望み、自分と周りの人々の可能性を信じて歩もうとする力強い讃美歌です。

インフォメーション

第360回 早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話しをいただき、人生の歩みを分かち合う恵みの時としています。

日時：2024年4月19日(金) 7:30~8:30

証し：錦織 一郎さん(大阪YMCA元総主事)

場所：大阪YMCA会館 10階 チャペル(大阪市西区土佐堀1-5-6)

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



【お問い合わせ】

大阪YMCA本部事務局

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

大阪YMCAクリスマス献金へのご協力 ありがとうございました。

(敬称略)

井上 瑞貴
今口 凱斗
入江 保夫
上村 五月
宇埜 充洋

工藤 義正
國友 朝子
小島 宏樹
五味 昌太
島田 真一

田邊 紗季
野上 晴史
花野 光祐
矢野 成悟

土佐堀YMCA
チャリティー
ボウリング大会

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2024年2月度報告(敬称略)

【新規会員】

木村 謙吾

【継続会員】

小寺 規久子

小西 雄希

佐川 隆二

佐古 利子

佐古 至弘

和田 隆一

【継続賛助会員】

株式会社イマイチ

株式会社藤木工務店

大阪YMCA
ホームページ



ボランティア
スクエア

